リスボンを楽しむ

について

写真: Turismo de Portugal

リスボンを楽しむ

リスボンは、探検に繰り出して近隣地区ごとに、通りごとに現われるものを発見したくなるような都市です。安全で友好的な都市で、比較的小さいながらも見るべきものが非常に多くあります。数日を過ごす街として、あるいは国を巡るツアーの出発地として理想的です。古い町ですが、近代的な町でもあります。そして間違いなく、いつも驚きに満ちています。

探検するトピック、テーマを選択できます。次のような幅広い選択肢があります。ローマ時代のリスボン、マヌエル様式、バロック様式またはロマンチック・リスボン、文学のリスボン、ボヘミアンのナイトライフが繰り広げられるリスボン、ファドの都市。さらに、非常にさまざまな方法で探検できます。徒歩、トラム、セグウェイ、バス、トゥクトゥク、ボートツアーで楽しむ川からの光景、あるいはカシレイロ (cacilheiro) フェリーでタグス川を渡って反対側から見る光景など、お勧めの方法は無限にあります。

しかし、絶対見逃せない、常にリストに上る重要な場所がいくつかあります。例えば、この都市と川を一望できる最も素晴しい景観を楽しめる、歴史的なアルファマ (Alfama) とカステロ (Castelo) 地区です。

大航海時代を彩る街の1つ、ベレンに向けてダウンダウンから出発しなければなりません。ここには、ともに世界遺産であるベレン塔 (Torre de Belém)、ジェロニモス修道院 (Mosteiro dos Jerónimos) があります。しかし、元祖の馬車博物館 (Museu dos Coches) と近代的なベレン文化センター (Centro Cultural de Belém) も見逃せません。あぁ、そうでした！美味しいパステイス・デ・ナタ (カスタード・タルト) を召し上がるのをお忘れなく！

午後遅い時間から夜にかけては、シアード (Chiado) とバイロ・アルト (Bairro Alto) で過ごしましょう。カイス・ド・ソドレ (Cais do Sodré) が川に近いため、これらの場所は確実に充実したナイトライフを過ごせるスポットです。

この都市の新しい部分も忘れることはできません。北部のカルースト・グルベンキアン美術館 (Museu Calouste Gulbenkian)、川に沿って進むと見えてくる国立タイル博物館 (Museu Nacional do Azulejo) などの重要な美術館、博物館は必ず訪問してください。1998年の世界博覧会、エキスポ98のために完全に再建設された港湾地区、国際公園 (Parque das Nações) に移動しましょう。ここは現在、新しい都市の景観をもつ重要なレクリエーション・スペースになっています。

ここで、リスボンのさまざまな近隣地区をハイライトでご紹介します。あなたの観光プランは「リスボンの観光名所ベスト10」と「リスボンの1日ツアー」でより完璧になるでしょう。

確かなことが1つあります。リスボンはいつまでも忘れられない都市だということです！

バイシャ [BAIXA] (ダウンタウン)

リスボンの中心にある基準点、ポンバル公爵 (Marquês de Pombal)

2013 ポルトガル観光局 無断転載・転用禁止
info@visitportugal.com

の広場から、リスボン市内で最高のショップと高級ホテルが軒を連ねるリベルダーデ大通り (Avenida da Liberdade)
に向かうと、ダウンタウンに到着します。

バイシャはリスボン市の中心です。最も活気のあるスポットの1つで、頻繁にここを通っていることに気が付くでしょう。ここでは新旧が一堂に会します。新しいデザイナーと有名な国際的ブランドを揃えた伝統的なショップが並んでいます。

通りの幾何学模様とファサードの優美な節度は、ここで暮らすさまざまな社会的階層の人々の間に明らかな違いはないものの、より古い周辺地域と対照を成しています。これは、1755年の大地震後、この都市の再建を担ったポンバル公爵の進歩的でヴィジョンに満ちた精神の結果です。

昔、すべての商人と職人がここに集まっていました。それが、次のように通りの名前に反映されています。オウロ通り (Rua do Ouro) (金) とプラタ通り (Rua da Prata) (銀) の宝飾店、ファンケイロス通り (Rua dos Fanqueiros)
の服地・衣類店、コルレエイロス通り (Rua dos Correeiros) とドウラドレス通り (Rua dos Douradores) の馬具屋などです。これらの通りは、次のような守護聖人に因んだ名前を持つ通りと交差しています。サンタ・ジュスタ、ノッサ・セニョーラ・ダ・アスンサォン、ヴィトーリア、サン・ニコラウ、ノッサ・セニョーラ・ダ・コンセイサンです。またここは商業地区であったため、主要なポルトガルの銀行を設立するための重要な場所でもありました。

北端部には2つの重要な広場があります。ロシオ (Rossio) 広場という呼び名のほうが有名ですが、ペドロ4世のために設けられた広場には、シントラ線が使用している鉄道駅のネオ・マヌエル様式のファサードがあります。また、古典的な国立ドナ・マリア二世劇場があります。真ん中には、フィゲイラ広場 [Praça da Figueira] へとつながる小さな通りがあります。ここは商業地区のため、国王ジョアン1世の像、そしてもう1つの有名なケーキ屋、コンフェイタリア・ナシオナル (Confeitaria Nacional) があります。ここのケーキを食べずにはいられません。これらの広場は丘に囲まれています。丘の上からは、一方で城が、反対側にはカルモ修道院 (Convento do Carmo) が見えます。ここでは昼でも夜でも、写真を1枚撮りたくなります。

サンタ・ジュスタのエレベーター (Elevador de Santa Justa) に登るまでバイシャのツアーは終わりません。これは、エッフェルの弟子ポンサルドにより1902年に建てられた、鉄鋼建築の美しい例の1つです。登る価値は十分にあります。

歩行者専用のアウグスタ通り [Rua Augusta] にはたくさんのショップやカフェ、レストランが軒を連ねています。川へ向かう主要ルートです。銀行を備える96番のビルの中、コルレエイロス通り [Rua dos Correeiros] の考古学センター [Núcleo Arqueológico] では、都市の基礎である古代フェニキアとローマ都市の遺跡を見ることができます。最後に、アウグスタ通りのアーチの頂上に上り、ダウンタウンとテージョ川 [Tejo] をのぞむ最高の景色をお楽しみください。

凱旋門の下を通ると、最も美しい広場の1つ、コメルシオ広場 (Praça do Comércio)
に出ます。大航海時代にはここがポルトガルの国王の住居でした。また、すぐ右手、リベイラ・ダス・ナウス (Ribeira das Naus) には、船が建設された港の倉庫やビーチがあります。これは、川の近く、川沿いのテラスや散歩などで静かに過ごすことができる、リスボン市への素晴しい入り口です。リスボン・ストーリー・センター (Lisbon Story Centre) では、この都市の歴史が分かりやすく紹介されています。多くのおしゃれなレストランの中でも、偉大なポルトガルの詩人フェルナンド・ペソア (Fernando Pessoa)
が頻繁に通った歴史あるマルティーニョ・ダ・アルカーダ (Martinho da Arcada) は今でも営業しています。

その近く、左側にはコンセイサン・ヴェーリャ教会 (Igreja da Conceição Velha)
があります。その正面は、モステイロ・ドス・ジェロニモス教会 (Igreja do Mosteiro dos Jerónimos) の正門入り口と非常に似ています。それらを設計したのは、同じ芸術家のボイタックでした。さらに進むと、興味深い16世紀のカーサ・ドス・ビコス (Casa dos Bicos) があります。フェラーラにあるダイヤモンドの館 (Palazzo dei Diamonti) のイタリア様式ファサードにヒントを得て、インド総督アフォンソ・デ・アルブケルケの息子が建造したものです。それを手がけた建築家はベレン塔 (Torre de Belém) と同じ、フランシスコ・デ・アルーダでした。現在は、ノーベル文学賞を受賞したジョゼ・サラマーゴ財団の本部になっています。彼の遺志によりその灰が安置されている場所の目印となるオリーブの木に眼を移してください。

城の付近

最高の景観を楽しめるリスボンで最も高い場所が、サン・ジョルジェ城 (Castelo de São Jorge)
です。その城は、すべてが始まる川につながるこの丘の上にありました。

ポルトガルの初代国王が1147年にリスボンを奪回したのがこの城からでした。また、あなたが独自の方法でこの市を手中に収めるのもこの場所からです。アルファマ (Alfama) およびモウラリア (Mouraria)
地区が、白い家と迷宮のように入り組んだ通り、中庭、路地とともに、この城から広がっています。ファド (Fado) は、これらの船乗り業で成り立つ周辺地域の中から生まれました。したがって、ここはファドを聴き、楽しむための最高の場所の1つです。

家々の上にある小さなタイルのパネル画に注目してください。それらは、この近隣地区を保護するために手を差し伸べた聖人たちに対する有名な献身の印です。ここは聖人の祭りが催される主要な場所の1つです。これは、聖アントニオ (聖アンソニウス)

の誕生日である6月13日の前日に特に賑やかになるお祭りです。しかし、この月の間はイベントが目白押しです。

城から丘を下っていくと、ポルタス・ド・ソル (Portas do Sol) とセルカ・モウラ (Cerca Moura) の展望台を通ります。リスボン市を一望するのに、川に面するこのテラスにしばしとどまるのはお勧めです。ここから狭い通りと階段を下りると、丘をさらに下ったところでファド博物館 (Museu do Fado) に到着します。そこから、ロマネスク様式のカテドラル (Sé Catedral)
への道を想像してみてください。反対側にあるサント・アントニオ教会 (Igreja de Santo António)
を訪問できます。ここは、かつてこの聖人の家族の家があった場所です。

ここから、リスボンならではの音が聞こえてきます。それは、レールの音です。トラム28番は、アルファマの中央からグラサ方面へと向かいます。サンタ・アポロニアと同様に特筆すべきものです。

グラサ (Graça) は、グラサ修道院 (Convento da Graça) あるいはセニョーラ・ド・モンテ (Senhora do Monte)
のビューポイントなどに近い、素晴しいビューポイントとテラスのある、最も人気のある地区です。再びアルファマ (Alfama)
のゲートに戻ると、堂々たるサン・ヴィセンテ・デ・フォーラ教会 (Mosteiro de São Vicente de Fora) があります。これは、リスボンの守護聖人に捧げられたもので、アフォンソ・エンリケス国王により1173年にそのように宣言されました。ポルトガル王家最後の王朝、ブラガンカスのパンテオンもここにあります。回廊にあるタイルのフリーズの中に、ラ・フォンテーヌの寓話を見つけることができるでしょうか。

修道院の一方を下っていくと、カンポ・デ・サンタ・クララに到着します。ここは、毎週火曜日と土曜日にフェイラ・ダ・ラドラ (Feira da Ladra) (蚤の市)
が開かれる拠点となります。古いマーケットと快適な庭園の鉄製の建築物を見た後には、サンタ・エングラシアのパンテオン (Panteão de Santa Engrácia) が現われます。これは、バロック様式の記念碑的教会で、ギリシャ風十字架 (4本の枝が同じサイズ) の形状を取っており、建築後400年以上が経過しています。このため次のような格言が生まれました。「サンタ・エングラシアの作品よりも古い」。すべてが大理石の内装は見る価値があります。さらに、ドームの頂上に上ってみましょう。これは国立のパンテオンで、ファド歌手、アメリア・ロドリゲス、そして民主党の初代大統領、マヌエル・デ・アリアガなど、ポルトガルの歴史において偉大かつ重要な人物が埋葬されています。

さらに下ると、国際列車の鉄道停車場として有名な、サンタ・アポロニア (Santa Apolónia) があります。川岸では、空の倉庫が改築され、素晴しい景観を楽しめるレストランやナイトクラブに生まれ変わりました。この首都を探検するためにここにドック入りするクル―ズ船の主要港もあります。

グラサに戻ると、徒歩で城の北側の坂の周りにある広場、モウラリアに向かうことができます。あるいは、トラム線の終点まで乗ることができます。この場合、大きな広場、マルティン・モニス (Martim Moniz) に出ます。市の中心部に非常に近く、インド、中国、アフリカ、東ヨーロッパの国々からの移民の非常に大きなコミュニティがある多国籍地区です。ここは他の人々の習慣と知識が健全に融合しているリスボンの一部で、国際都市のホスピタリティと非常にポルトガル的な特質を見ることができます。

シアード/バイロ・アルト

市の中心部から歩くと、自然にシアード (Chiado) に到着します。ここは、この市で最も魅惑的な場所の1つで、文化的生活の中心地です。劇場、文学カフェ、古い書店の存在がそれを証明しています。

16世紀に始まった優美なシアード地区は、19世紀にそのピークを迎えました。そして20世紀になると、フェルナンド・ペソアやアルマダ・ネグレイロスなどの知識人や芸術家が集う場所になりました。現在でも芸術やデザインを学ぶ学生たちがよく利用しています。美術学部を持つサン・フランシスコ修道院の一部には、ポルトガルの現代美術の歴史の基準点であるシアード美術館 (Museu do Chiado) があります。

この地区には、素晴しい劇場の伝統もあります。サン・カルロス劇場 (Teatro Nacional de São Carlos)、サン・ルイス劇場 (Teatro São Luiz)、そしてトリンダーデ劇場 (Teatro da Trindade) のプログラムはリスボンの文化生活の重要なポイントです。

シザ・ヴィエイラなどの現代建築家により保存されているポンバリーナ様式の建物の中でも、マルティレス (Mártires)、ロレート (Loreto)、エンカルナサォン (Encarnação)
の各バロック様式教会と並び、名高いレストラン、ショップ、その他の貴重な建物が集まっています。そしてカルモ広場 (Largo do Carmo) では、現在は考古学博物館になっていますが、廃墟となった魅力的な修道院が1755年にリスボンを破壊した地震の記憶を留めています。サラザールの独裁政治に反対して1974年4月に勃発した歴史的なカーネーション革命の渦中でいくつかの事件が発生したバラックは、かつての修道院の離れ屋にあります。

数多くの洋服店、雑貨店、書店、生花店などが軒を並べており、楽しい午後の買い物に必要なものはすべて揃います。また、ちょっとした休憩には、アイスクリームや美味しいコーヒーが一番のお勧めです。有名なブラジレイラでは、フェルナンド・ペソアをお供にどうぞ。

2013 ポルトガル観光局 無断転載・転用禁止
info@visitportugal.com

シアードからもビューポイントの1つ、サンタ・カタリナ (Santa Catarina)
に行くことができます。そこからは、リスボンの港、キリスト王 (Cristo Rei)
の像、そして4月25日橋を一望できます。途中、歩道が狭い階段になっている急な坂道で100年の歴史を持つビカのケーブルカー (Elevador da Bica) を通り過ぎるでしょう。

そのままバイロ・アルト (Bairro Alto) 方面へに登っていくと、昼間にはおしゃれなショップ、古いショップ、または新しいショップなどが建ち並ぶ有名な地区に到着します。国際的に有名なデザイナー達と並んで、個人のドレスメーカーや若手のデザイナーが自分たちのショップをここに開いています。芸術家達のスタジオや画廊がこの都市の景観を完璧なものにしています。夜には多くのバーやレストランによって、市内で最も賑わう地区の1つとなります。

バイロ・アルトを横切ると、市を見晴らす別の展望所、サン・ペドロ・デ・アルカンタラ (São Pedro de Alcântara)
展望台に到着します。サン・ロケ・キリスト教会 (Igreja de São Roque)
に入るために階段を登るのは、その価値があります。この2つを結ぶグロリア・ケーブルカー (Elevador da Glória)
で、リベルダーデ大通りのダウンタウン地区に出ることができます。

時間が許せば、エスコラ・ポリテクニカ通り (Rua da Escola Politécnica) を歩いてみましょう。ここには、プランシペ・レアル庭園 (Jardim do Príncipe Real)、自然歴史博物館 (Museu de História Natural)、植物園 (Jardim Botânico)
があります。この通りは、ラト広場 (Largo do Rato)、次に小さく快適なアモレイラス庭園 (Jardim das Amoreiras) につながっています。この庭園には、ともに現代芸術家で夫婦でもあったアルパド・スゼネスとマリア・ヘレナ・ヴィエイラ・ダ・シルヴァに捧げられた美術館があります。

このすぐ近くには、ローマ時代の黄金期に建てられたバロック様式のエストレラ・バシリカ (Basílica da Estrela)
とその庭園があります。

国際公園 (PARQUE DAS NAçõES) 周辺の散策

リスボンの東側にある国際公園を訪れるために午後の時間を丸々取っておくことには価値があります。この公園は近代建築のエリアにあります。ウォーキングやサイクリング、スケートボードを楽しんだり、質の高い文化的な余暇の時間を過ごすのに最適です。

ここは、タグス川沿い5km以上に広がる古い荒れ果てた工業地区でしたが、1998年のリスボン・ユニバーサル・エキシビション (エキスポ98) 開催のために完全に再建されました。素晴しい品質の建物とアメニティが設計され、このイベント終了後にリスボン市の都市構造に統合されました。こうして、この市で最も近代的な地区が誕生しました。

オリエンテ駅 (Estação do Oriente) から訪問を始めましょう。著名なスペイン人建築家、サンティアゴ・カラトラバにより設計された縦型の複雑な構造は、ゴシック様式のアーチを連想させます。エドゥアルド・ソウト・デ・モウラとのコラボレーションでアルヴァロ・シザが設計したポルトガル・パビリオン (Pavilhão de Portugal / Altice Arena) に進みましょう。この二人はポルトガルで最も著名な建築家です。その構造は、2つのレンガの上に紙を1枚置くというアイデアに基づくもので、日よけ板の形のプレストレスト・コンクリートという印象的な構造を用いて、図版が現実の建築物になりました。すぐ隣には、レジーノ・クルスが設計した大西洋パビリオン (Pavilhão Atlântico)
があります。外観は宇宙船か海洋動物に似ていますが、内部は木を使った構造が16世紀の船を髣髴とさせる屋根を支えています。

とにかく足を運ぶべきもう1つの場所はリスボン水族館 (Oceanário de Lisboa) です。ヨーロッパ最大の水族館で、設計者はピーター・チェマイエフです。地球上のさまざまな海洋環境が非常に正確に再現されているため、ほとんど実物のように見え、最も多様な種が入れられた巨大な中央水槽を取り囲んでいます。

それほど遠くないところには、1999年バルセロナで大陪審ファド賞を受賞したカヒーリョ・ダ・グラサの設計による海の知識パビリオン (Pavilhão do Conhecimento)、そしてマヌエル・サルガドス設計によるカモンイス劇場 (Teatro Camões)
があります。ここは現在国立バレエ団の本部であり、1日の終わりにショーを見るのに素晴しい場所となっています。

国際公園内には、15世紀と16世紀の偉大な航海時代にポルトガル人により発見された土地から運ばれた種が植えられているアラメダ・ドス・オセアノス(Alameda dos Oceanos)、水上庭園 (Jardins d ’ Água)、ガルシア・ドルタ庭園 (Jardins Garcia d ’ Orta) などの多くの緑地と、河岸の遊歩道があります。1kmの距離を移動するケーブルカーに乗ることは、この地域全体を把握するのにお勧めの方法です。

この広大な都市芸術施設からは、ショッピング・センター、常に川の近くにある多くのバー、レストラン、テラスなどにも出かけることができます。最も離れた場所にあるマリーナは、タグス川河口にある静かな港で、小さなボートやヨットを停泊できます。

2013 ポルトガル観光局 無断転載・転用禁止
info@visitportugal.com

ベレン (BELéM)

ポルトガルにとって非常に重要である歴史的一時代である大航海時代のリスボンについて知りたい場合には、ベレンを訪ねることをお勧めします。

15、16世紀、ベレンは人気のある地区でした。その活気ある港から、船や小型帆船が大いなる大西洋の航海に出発していきました。船、オール、帆、ロープは日々の喧騒の一部でした。また船乗り達は、はるか遠い目的地に向けて出港する前に、聖メアリーに捧げられた小さな教会で神の加護を祈ったものでした。

ベレンは今日でもなお重要な地区ですが、その理由は別にあります。いくつかのモニュメント、博物館、川沿いにある大きな美しく手入れされたエリアにより、この地区は散策のための非常に快適な場所になっています。

リスボンで最も象徴的なモニュメントのうちの2つがここにあります。ジェロニモス修道院 (Mosteiro dos Jerónimos) と、かつてサンタ・マリア礼拝堂があった場所にあるベレン塔 (Torre de Belém) です。これら2つの至宝は、価値あるマヌエル様式の代表作で、世界遺産に登録されています。これらを建設した国王マヌエル1世の環に囲まれた天球や、数多くの海のモチーフ、ロープ、惑星、ちょっと変わった動物を見ることができます。この修道院は、東方から持ち帰られたスパイスの価格の5%を使って建築されました。それらには胡椒、シナモン、ナツメグ、クロ―ヴが含まれており、ポルトガル料理の一部となっています。

ジェロニモス修道院は19世紀に再建された建築物の一部を、国立考古学博物館 (Museu Nacional de Arqueologia) と海洋博物館 (Museu Marítimo) と共有しています。そのコレクションは大航海時代にも重点を当てており、船や小型帆船の小さなレプリカを展示しています。その隣は、カルースト・グルベンキアン・プラネタリウム (Planetário Calouste Gulbenkian) です。ここはいつでも、私達の地球の空を発見するための宇宙への旅へ誘ってくれます。

ベレン文化センター (Centro Cultural de Belém) の近代性は、インペリオ広場周囲のほかのモニュメントと好対照をなしています。テラスや非常に魅力的なイベントのプログラム、そして国際的に著名な現代美術家たちの作品を集めたベルナルド・コレクション美術館 (Museu Coleção Berardo) があります。

川沿いに下ると、発見のモニュメント (Padrão dos Descobrimentos) があります。そこに登ると、足元の地面に描かれた巨大なコンパスがよりはっきり見えます。このモニュメントは、1940年から大航海時代に活躍した偉大な冒険者達に捧げられており、偉大なポルトガル時代の火付け役となったエンリケ航海王子により率いられたフェルディナンド・マゲランやヴァスコ・ダ・ガマなどの人々が描かれています。

休憩する時間になったら、一番人気のカスタード・タルトを目当てに、有名なケーキショップ、パステイス・デ・ベレン (Pastéis de Belém) に向かいましょう。行列が長いかもしれませんが、サービスはスムーズです。また、並んで待つ価値はあります。なぜなら、そのカスタード・タルトは他のケーキショップのそれとは本当に違うのです。もちろん、他のショップのカスタード・タルトも十分美味しいのですが。レシピは代々受け継がれてきました。門外不出の秘密です。

ベレンはもう一つの見逃せない博物館でも有名です。すなわち、国立馬車博物館 (Museu Nacional dos Coches) です。そのコレクションは世界でも珍しく、その一番の見どころは、3台の18世紀の式典用馬車で、ローマ法王クレメンス11世の元へ送られたポルトガルの使節団が使用したものです。

また、熱帯植物園 (Jardim Botânico Tropical) 、さらに登って国立民族学博物館 (Museu Nacional de Etnografia)、メモリア教会 (Igreja da Memória)、さらにアジュダ宮 (Palácio Nacional da Ajuda) など、興味深いポイントはほかにもあります。

ベレンに行く途中、あるいは市の中心部に戻る時に、国立古美術館 (Museu Nacional de Arte Antiga) に立ち寄りましょう。ここには国内の美術の主要な参考資料が展示されています。例えば、ポルトガル人が日本に到着したときのポルトガル人の様子が描かれている南蛮屏風や、アジアから持ち帰った数点の陶磁器などです。しかし、ポルトガル人が出会ったこれらの人々について詳しく知るには、オリエント博物館 (Museu do Oriente) へ向かいましょう。どちらでも、川を一望する美しい景観が楽しめます。

お役立ち情報 | 行き方

観光情報はwww.visitlisboa.comをご覧ください

リスボン・カード – 公的交通機関を利用できるカードで、リスボン市について知るためのモニュメントやアメニティの利用時に割り引きが適用されます。情報と観光案内所についてはwww.askmelisboa.comをご覧ください。

リスボン市内の教会の見どころ、イベントの日程、ミサなどの観光情報はこちら: www.quovadislisboa.pt

交通機関
リスボンは地下鉄 - www.metrolisboa.pt とバス - www.carris.ptが公的交通機関のネットワークを構成しています。

2013 ポルトガル観光局 無断転載・転用禁止
info@visitportugal.com

市の魅力の1つはトラムとケーブルカーです。市の中心部を、次のようなより高い場所にある地区やビューポイントと結んでいます。グロリア (Glória)、ビカ (Bica)、ラヴラ (Lavra)、サンタ・ジュスタ (Santa Justa)。トラム28番は市内と歴史地区を走り、世界中の旅行ガイドで紹介されています。トラム15番は、プラサ・ダ・フィゲイラ (Praça da Figueira) からベレン (Belém) までタグス川沿いを走ります。詳細については、www.carris.ptをご覧ください。

テレイラ・ド・パソ (Terreira do Paço) は、ボートでバレイロと結ばれています- www.transtejo.pt。

カイス・ド・ソドレ (Cais do Sodré) からは、フェリーボートでカシーリャス (Cacilhas)、セイシャル (Seixal)、モンティージョ (Montijo) に渡ることができます - www.transtejo.pt。ここは、カスカイス (Cascais) 行きの電車の出発地でもあります - www.cp.pt。

また、4月25日橋を走る鉄道会社Fertagus (www.fertagus.pt) の電車、またはバス www.tsuldotejo.ptで川を渡ることもできます。

2013 ポルトガル観光局 無断転載・転用禁止
info@visitportugal.com